# 香川県透析医会だより

大林誠一

## 香川県における腎不全対策の現状

香川県における保存期腎不全患者数は推定500名位と思われ，昭和57年末に故今川章夫，高光義博，大林誠一，横田武雄，広畑　衛を世話人とした香川県内の腎疾患に携わる同好の先生方の勉強会として，昭和58年2月5日発足，第1回を開催，年2回の予定で現在35回まで続いている．内容は，膠原病の腎障害，画像診断，腎組織，腎移植，高血圧などと幅広い演題が出題されている．

本県は全国でも面積は1，2を争う小面積の県で，日本総生産の1/100という貧県である．それに比例して透析患者数も全国の1/100で，平成9年において1,640名である．香川県の透析というと毎年ニュースになる渇水問題がある．もともと深山はなく，その上年間降水量は日本一少ない．隣の徳島県では子供がプールで遊んでいる時，香川県では時間給水で，行政的に水の配分が適正に行われていないという説もある．いずれにしても香川県の透析施設は水の節約と確保を常に念頭におく必要がある．

香川県透析医会は昭和63年2月に創立された．3月に透析医会報1号を発行．本年7月2日に第21回香川県透析医研究会が小豆島で開催された．

香川県における透析開始は昭和43年と比較的早かったが，腎移植は昭和63年とかなり遅く，生体腎移植数，なかんずく死体腎移植数はこれまで6例だが，県内からの提供腎は0とまったくなさけない．香川県腎バンクの設立は平成2年4月に行われ，現在，中四国ブロックに入っている．コーディネーターは1名でドナー提供を求めて孤軍奮闘されている．いずれにしても本県の透析患者の高齢化と糖尿病性腎不全患者の増加，並びに移植者の数の少ないことは，日本の腎不全患者の現状の縮図といえる．

キナシ大林病院理事長